

中学1年

合唱祭

～クラスみんなで心をひとつに
笑顔のために～

クラスの生徒について

- ・発言することや話し合いで意見を言うことができる子が多い。
- ・友達を思いやった行動ができる。
- ・幼さ故に自分の視点でしか考えられない生徒が複数いる。

手立てのポイント①

【生徒が PDCA を回す主体的な行事にするための手立て】

教師が「敢えて口出ししない」スタンス

運動会の時は入学間もなかったこともあり、選手決めや走順・競技の練習方法など担任がアドバイスをする機会がとても多かった。生徒には運動会や、遠足の経験を生かし、「まずは自分たちで考えてやってみよう。」という教師が敢えて口出ししないスタンスで取り組み始めた。最初は戸惑いもあり、アドバイスを求める場面も多かったが、次第に自分たちで話し合いをし、改善、練習するようになった。

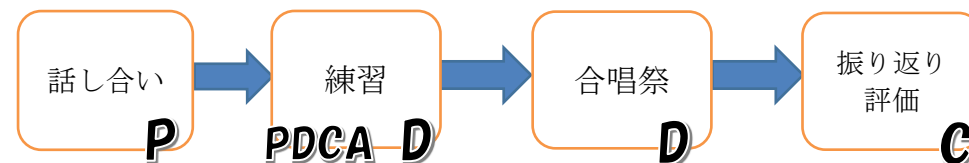
Google フォームを使用し合唱祭に向けたアンケートの実施

Google フォームを使い、個人アンケートを練習開始前に実施した。アンケートでは「自分がクラスのためにできることは？」という問いや、「合唱に向けてどのように取り組んでいきたいか」などを問い、生徒が記述することで、生徒個人でも練習に向けての目標を持ち、それに向けて PDCA を回していけるようにした。

練習日程の中盤で生徒が再度自分を振り返る場を設ける。

行事ではいつも事前の目標設定と、事後の振り返りを行っているが、練習の中盤で個人目標の見直しをする場を設けた。目標を再度認識して練習に励む生徒や、今までの練習の取り組みから改めて目標を設定し直す生徒もいた。「どうする？」「どうしていく？」という言葉がいつもより多く意識して発し、生徒の自己決定を尊重するようにした。

大まかな単元の流れ



手立てのポイント②

【生徒にとって必要な合意形成にするための手立て】

学級で目標を共有するための話し合いの場の設定

アンケートの「みんなでどんなことを決めたいか？」という項目には、「目標を決めたい」という生徒が多くいた。どんな合唱際にしたいか目標を共有するために、意見の集約、話し合いを実施した。クラス全体の目標は「クラスみんなで心をひとつに、笑顔のために」に決まった。

手立てのポイント③

【自己肯定感を育むための手立て】

賞状を作成することで相互評価

アンケート及び話し合いにより運動会で実施したメダル作成・授与を今回も行いたいという意見が出てきたので、合唱祭でも1人1枚賞状を作成した。練習開始前に「〇〇賞」と自分で賞を考えて作成し、練習・本番を通して誰が自分の賞にふさわしいかを考えながら練習に取り組んだ。「お互いの良い所を見つける」視点を持っていることで、自然と良かった所を言葉に出して伝える生徒が増えた。活動の途中でも生徒の自己肯定感を高めることができた。

歌うことへの羞恥心や苦手意識、歌声の発声量の差があることを伝える

運動と同じで、歌うことに対して苦手意識を持つ生徒がいることも全体に伝えた。自己及び他者の個性の理解と尊重のために、途中でこうした声かけをすることは、相互理解を促す点で効果的であった。

実践を通して見られた生徒の様子

合唱祭を通して、素直に自分の気持ちを言葉にして表現できる生徒が増えた。また、他者理解と尊重することができるようになり、授業中に自然と教え合い、学び合いを行う姿が多く見られるようになった。

実践詳細
の二次元
コード

